

△班、行動記録

組（A班）に参加。今回の山開き山行は気が乗ら無く参加するか否か非常に迷い

第六十六回 安達太良山開き

五月十七日(日)

第六十六回 安達太良山開
きは、新型コロナウィルス
対策のため、奥岳での安全
祈願祭だけとなり、山頂で
の行事は総て中止となりま
した。直前の十四日（木）
に、本県含む三十九県の緊
急事態宣言は解除され、く
ろがね小屋も十六日（土）

報告編集部

編集部

から部分営業となり、ロードウェイも運行されましたが。当日当会はパトロール隊三班を入山させ、登山者の安全確保を行いました。当日は朝から荒れ模様の天気もあり登山者は少なかつたようです。各班からの報告は以下の通りです。

執行部提案通り、了解頂く

379号
発行所
松市鉄扇町
たら山の会
集部

●編集部連絡先
二本松市郭内 1-5-5
0243(22)4245



恒例の レストハウス集合写真、15時3分の撮影

いました。例年の山開きなら渋滞が凄くたえ天気が悪くてもそれなりの人出が

▼ B 班、行動記錄

先行き不安です。岳の湯の
熱いお湯に浸かって筋肉痛
を緩和して帰宅しました。

少ない。小学生の男の子と夫婦の連、女性の連など、ちらほら。山頂着くと風とガスで最悪。頂上で福島から単独で来た女性を写真に撮る。東京で失職して霧山と磐梯山に登山して暇を潰しているとの事。早くの再就職を願つて別れる。稜線から馬の背、ガスと強風が強烈。峰の辻で□□ガイド（玉川屋）と岳温泉観光協会の女性二人と会う。小屋に下る途中でB班のメンバーと一緒に小屋到着。□君と□□君に再会。小屋ガラガラで、椅子の間隔を開けて昼食。今年は本当に登山者、本当に少ない。勢至平でシヨウジョウカマ・イワナシが頂頭咲き乱れてました。天気も回復、下りは楽しい山行になりました。今年は何回山行できるか、



くろがね小屋出発のA班、C班、
一般的の登山者いない、
13時20分の撮影



山頂に到着した、B班
登山者誰もいない、
13時22分の撮影

ありました。今年は平日
の山登りをしてるぐらいの
登山者しかおらず、くろが
ね小屋も間隔を空けての座
席の利用など影響の大きさ
を実感しました。お昼ぐら
いに山頂につきましたが残
念ながらガスの中で視界は
ほとんど無く、雨でないの
が幸いでしたが少し、残念
でしたがそれでも数名の登
山者がおり、今までの自虐
から登山を楽しんでいるよ
うでした。早く、前と同じ
日常に戻りませんが山に登
れる日常に戻れればと思いま
す。

二十八日(木) 二本松市
都市計画課は 安達太良山
湯川渓谷登山道に「サイン
看板(丸札道標)」設置を行った。塩沢スキー場の登
山道入口が一番で、終点く
ろがね小屋が三千番、分數
形式の表示で自分の居場所
が分かるようになつてい
る。毎年、十一月の降雪期
前に取り外され、晩春のこ
の時期に設置される。当日
は 市役所職員四名・塩沢

温泉観光協会一名・あだたら山の会四名が参加し、市役所に保管されていた道標を取付た。途中あだたら山の会は道標取付の外に、屏風岩向のクサリ場の桟道設置、天狗岩向い崖道に階段設置を行った。登山道では、小さな「稚児百合」ピンクの「東国三葉躑躅」足下には「狸々榜」、塩沢スキー場にはグミになる「薦神樂」が咲いていた。午後三時半

五月二十八日(木)

湯川渓谷
サイ

た。山スキーカーの技術向上に
とジルブレッター金具付の
板を何台も寄贈してくださ
ったことも、忘れられませ
ん。山の楽しみを広げて下
さいましたし、冬山の遭難
救助のスピードアップにも
大いに役立ち、感謝しきれ

安達太良山は大変風の強い山ですが、その上に広がるほんとの空をどうか優しく吹いて、登山者の安全と会員の活動をお守りください。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

□□さんに心から感謝して

▼□□さん

追悼文

□
□
□ さん
追悼文

四用七田
八十

山行

屏風岩向、棧道設置

出発時、並べてまず確認



参加者全員で撮影、シャッター押して貰った

30番は、くろがね小屋

私は一九四〇年四月八日生まれで、八十歳の誕生日を迎える事が出来た。前から予定していた誕生日登山安達太良を計画していたが、四月八日が息子の退院日となり、一日早め四月七日に記念山行をする事にした。

奥岳、九時四十分、くろがね小屋までの入山届で入山。コロナウィルスのせいか、駐車場の車も少ない。鳥川で私を追い越した人は勢至平分岐より、竜山の方へ行ったようだ。八の字頭からおは登山道は全面雪道、

分岐で休憩していると小屋の方が二人下山して来る。今日始めて逢った人だと話していた。金明水手前でアイゼンを付ける。金明水からは、下山した二人組の足跡を頼りに進むが、古い雪と新しい雪の境がわからず、ら湯川コース分岐までの間は、下山した二人組の足跡を頼りに進むが、古い雪と新しい雪の境がわからず、三回くらい足を取られる。下山して来た人達も滑った跡が残っている。小屋手前の水場の所も、雪の下が空洞。道を付けようと跡

う若者が一人記念写真を撮り、お願いし、早々と山頂を後にする。山頂から薬師岳まで全面雪道で時間を稼ぐが出来たので、薬師岳でコーヒータイム。五葉松平コース、足場の無い所はあつた。スキー場まで、アイゼンを付けての下山となる。奥岳には予定の五時半には下山する事が出来た。一日早い記念日となつたが、冬山の感触を味わうおまけ付きの山行、晚酌のビールの美味は格別だった。

A photograph of a person standing on a rocky mountain peak, arms raised in triumph. The person is wearing a green jacket, a backpack, and a dark cap. To their right is a wooden summit register with Chinese characters. The background features a large, rugged mountain peak covered in snow and rocks.

み込んでいったが、諦めて廻り込んで小屋へ。十一時三十分小屋へ着く。小屋は管理人だけ。昨日は強風で屋根が飛ばされるのでは